

人がつながる「地域と共にある学校づくり」研修講座実施報告

- 1 日時 平成26年8月29日(金) 13:00~16:00
- 2 会場 県立教育研究所
- 3 参加者 県内公立小・中学校教職員、県内幼稚園教職員、県立学校教職員、各教育委員会事務局 計163名
- 4 内容
- | | | |
|-------------|---------|---|
| 13:00~13:05 | 開 会 | |
| 13:05~13:25 | 講 義 | 「地域と共にある学校づくり」 |
| 13:25~13:45 | 実践発表 | 王寺町立王寺南小学校長 山田 均 |
| 13:50~15:00 | 講 演 | 「地域と共にある学校づくり
～幼・小・中・高の教育の連続性を求めて～」
大阪教育大学教職教育研究センター特任教授 島 善信 |
| 15:10~16:00 | グループワーク | 「地域ぐるみで子どもたちを育てる」 |



5 講演概要

① 社会の変動と教育の役割

ICT、環境教育など教育を取り巻く状況は、かつてないほど複雑な状態である。社会人として自立するために、知的な能力以外にも人間性や社会性などが求められている。このようなことを学校で解決するための象徴が「地域と共にある学校づくり」である。

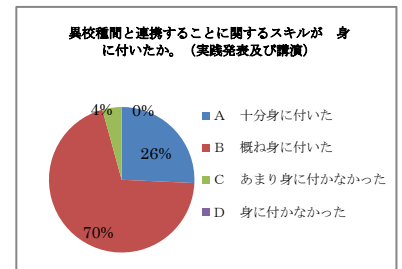
② 教育政策の動向の理解

キー・コンピテンシー、OECDが規定した学力には、「知的能力」、「社会性・市民性(=人権意識)」、「自己形成力(=自分を作り上げる力)」の3つがある。授業改善として、授業研究を伴う校内研修を小中合同でやっていかねければならない。

学び続ける教師というのがキーワード。「教職・教科の専門性(=学級経営)」、「新たな学び」、「地域や社会の多様な組織と連携・協働できる力(=人間性)」が必要である。

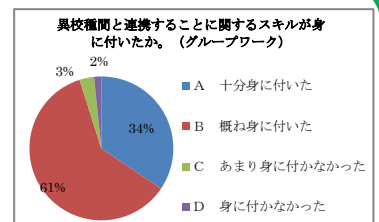
学校づくりでは4つの柱がある。「地域一体となった学校づくり」、「学校を良くするためのツールである学校評価を行う」、「中学校区を単位として、一体型、連携型、広域型、共同型、学園型など小中が一体となる」、「学校全体がまとまるため、マネジメント(経営)が必要」である。

学校づくりは、みんなが幸せになることが目標である。



6 グループワークの報告

- 異校種間連携について、学校単位ではなく、校区単位で捉えることの大切さが学べた。
- 地域(保・幼・小・中・地域・PTA)で共通の課題である「あいさつ運動」に取り組んでいる。
- 小中一貫教育への幼稚園の関わり方についても考えている。
- 小学校と高校など、年齢が離れている方が関わりやすい。



7 感想

- ★ 全くちがう小学校や中学校の先生方とグループ討議ができたことがよかった。(幼稚園)
- ★ 島先生の話は、実例や資料が多く、論理も実践も合致したことを話されていて感動的だった。(小学校)
- ★ 事務職としての関わり方や事例もあれば聞きたい。(小学校事務職)
- ★ 事務職員の中で、マネージャーをしておられる方がおられたので、私も前向きに進んでいきたい。(小学校事務職)
- ★ 全体説明→実践報告→グループワークとそれぞれで内容を深めることができた。(小学校)
- ★ これまで遠いことのように思ってきたが、すでに各校(自校)でやっていることも多くあり、延長上にある活動を深めれば良いのかと安心している。校区内異校種の先生にも会うことができ安心した。(中学校)

